

令和6年度奈良県公立学校優秀教職員被表彰者名簿

- 1 推薦件数 9件【内訳 小学校5件、中学校2件、県立学校2件】
 2 選考結果 9件を表彰
 3 被表彰者名簿

番号	校種	分野	地教委	学校名	氏名	性別	年齢	主たる担当	推薦の具体的事由
1	小学校	⑨学校教育	奈良市	六条小学校	なかむら ゆうや 中村 友弥	男	38	算数専科 教務主任	学び続ける学校をめざして ～ESDとNIEの取り組みから～
2		①学習指導	生駒市	生駒南小学校	たけむら あつひと 武村 篤人	男	44	理科専科 教務副主任	理科教育の推進 ～県域での理科振興と、勤務校での具体的な取り組み～
3		⑥地域との連携・協働	葛城市	忍海小学校	うえじま なかし 上島 崇	男	39	6年担任 生徒指導主事	実感を伴った経験から成長につなげる ～地域との連携を通して～
4		①学習指導	河合町	河合第二小学校	にった こうじ 新田 浩司	男	48	理科専科 教務副主任 研究部主任(ICT担当)	子どもの学びの道筋を活かす理科授業と子どもの見取り
5	中学校	⑧学校運営	奈良市	三笠中学校	もりやま まさふみ 守山 雅史	男	40	主幹教諭 生徒指導主事	多角的な視点から見る生徒指導における組織づくりについて
6		①学習指導	奈良市	若草中学校	しんたに たいち 新谷 太一	男	35	3年担任 研究推進部長	「探究学習の視点を取り入れた校内授業改善」の推進
7	県立学校	④特別活動や部活動等の指導	北部	奈良商工高等学校	よしただ ひろあき 吉竹 裕章	男	42	情報工学科科長 情報研究部顧問	ロボットプログラミングの指導による生徒の育成と地域貢献について
8		⑤特別支援教育	特別支援	ろう学校	やまもと あきこ 山本 明子	女	45	早期教育部 聴能部長	「チーム奈良ろう」を目指した取り組み ～ろう教育の専門性の向上を目指して～
9	若手・小学校	⑦ユネスコ活動や国際交流等	天理市	朝和小学校	たばた こうた 田端 浩多	男	35	6年担任 研究部主任	自分を見つめ、他者を受け入れる心を育てる教室づくり ～国際理解教育とコーチングの視点を取り入れて～

*年齢は令和7年4月1日現在

4 今後の予定

- ・表彰式はなし
- ・令和6年度中に優秀教職員実践事例集を県教育委員会のホームページ上に掲載

奈良県公立学校優秀教職員表彰実施要綱

(目的)

第1条 この表彰は、職務に精励し、他の教職員の模範となる教育活動を実践している教職員及び教職員組織（学校単位又は校長の指揮監督下にある分掌単位等をいう。以下同じ）を対象として実施し、もって教職員の意欲の高揚と学校の活性化を図ることを目的とする。

2 この要綱は、奈良県公立学校優秀教職員表彰選考委員会規則（平成24年12月県教育委員会規則第3号）第8条の規定に基づき奈良県公立学校優秀教職員表彰選考委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるほか、実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(被表彰者)

第2条 教職員に対する表彰（次項の若手教職員等奨励賞を除く。）は、市町村立の小学校、中学校、義務教育学校及び高等学校（以下「市町村立学校」という。）並びに県立学校に勤務する教職員であって、次に掲げる要件を満たす者とする。

一 現に教職員であること。

二 推薦年度の4月1日時点において、教職員経験9年以上かつ49歳未満の者であること。

三 勤務実績良好かつ過去に懲戒処分等の罰を受けていない者であること。

2 前項に規定する表彰のほか、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げた教職員経験が9年に満たない教職員であって、本項に規定する賞を受けた後、さらに顕著な成果を上げることが見込まれる者を表彰するため、「若手教職員等奨励賞」を授与することとする。

3 若手教職員等奨励賞は、市町村立学校並びに県立学校の教職員であって、次に掲げる要件を満たす者に対して授与する。

一 第1項第一号、第三号に規定する要件を満たすこと。

二 推薦年度の4月1日時点において、教職員経験9年未満かつ49歳未満の者であること。

4 教職員組織に対する表彰は、市町村立学校並びに県立学校の教職員組織であって、推薦年度の4月1日時点において、1年以上の活動期間があるものとする。

(被表彰者の推薦)

第3条 校長は、教職員及び教職員組織の勤務状況及び教育活動を十分把握し、別表に掲げる者と認められる教職員及び教職員組織を、被表彰者の候補者として県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に推薦することができる。

(推薦の手続)

第4条 校長は、前条の規定により推薦する場合は、次の各号に掲げる場合に依じて当該各号に定める手続を行うものとする。

一 教職員を推薦する場合

当該教職員が所属する学校の校長が別紙第1号様式の1又は2による推薦書及び第2号様式による実践報告書を作成し、市町村立学校にあっては当該市町村教育委員会教育長に、県立学校にあっては別紙第4号様式の2により教育長に提出する。

二 教職員組織を推薦する場合

当該教職員組織の代表者が所属する学校の校長が別紙第1号様式の1による推薦書及び別紙第3号様式による名簿を、当該教職員組織の代表者が別紙第2号様式による実践報告をそれぞれ作成し、市町村立学校にあっては当該市町村教育委員会教育長に、県立学校にあっては別紙第4号様式の2により教育長に提出する。

- 2 市町村立学校の場合にあっては、市町村教育委員会教育長は、前項の規定により提出された書面に別紙第4号様式の1により意見を附して、教育長に提出するものとする。

(選考基準)

第5条 委員会は、主として別表に掲げる成果を基準として、常に積極的な取組を行い、他の教職員の模範となる教育活動を実践している教職員及び教職員組織について審議し、被表彰者の候補者を選考するものとする。

- 2 教職員組織に対する表彰については、教職員同士や専門的な職員等との連携・分担といった組織的な取組による、前項各号に掲げる特に顕著な成果を基準として選考する。

(被表彰者の決定)

第6条 被表彰者の決定は、前条の規定による選考の結果に基づき、教育長が行うものとする。

(表彰等)

第7条 表彰は、毎年1回行い、表彰状を授与するものとする。

- 2 表彰に係る教育活動の実践事例は、県内の学校教育の活性化に資するために広く公表するものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定めるものとする。

附則

- 1 この要綱は、平成24年12月28日から施行する。
- 2 奈良県公立学校優秀教職員表彰選考委員会設置要綱（平成16年9月1日施行）は、廃止する。
- 3 平成26年4月22日一部改正。
- 4 平成27年5月22日一部改正。
- 5 平成29年6月29日一部改正。
- 6 令和2年6月5日一部改正。
- 7 令和5年6月1日一部改正。

別表（第3条関係）

教育実践分野

番号	内 容
①	学習指導における特に顕著な成果
②	生徒指導、進路指導等における特に顕著な成果
③	学校体育や学校保健、学校給食における特に顕著な成果
④	特別活動や部活動等の指導による、児童生徒の育成における特に顕著な成果
⑤	特別支援教育における特に顕著な成果
⑥	地域との連携・協働の推進における特に顕著な成果
⑦	ユネスコ活動や国際交流等の分野における特に顕著な成果
⑧	学校事務の機能強化や勤務環境の改善等、学校運営の改善における特に顕著な成果
⑨	その他学校教育において、他の教職員の模範となるような実践による特に顕著な成果

（備考）別紙第1号様式による推薦書及び別紙第2号様式による実践報告書の作成に当たっては、この表に掲げる者のうちいずれか1つを選び、該当欄に記入する。

令和6年度

奈良県公立学校優秀教職員

表彰候補者

事例概要

1. 中村 友弥(朱雀小学校)	学び続ける学校をめざして ～ESDとNIEの取り組みから～
2. 武村 篤人(生駒南小学校)	理科教育の推進 ～県域での理科振興と、勤務校での具体的な取り組み～
3. 上島 崇(忍海小学校)	実感を伴った経験から成長につなげる ～地域との連携を通して～
4. 新田 浩司(河合第二小学校)	子どもの学びの道筋を活かす理科授業と子どもの見取り
5. 守山 雅史(三笠中学校)	多角的な視点から見る生徒指導における組織づくりについて
6. 新谷 太一(若草中学校)	「探究学習の視点を取り入れた校内授業改善」の推進
7. 吉竹 裕章(奈良商工高等学校)	ロボットプログラミングの指導による生徒の育成と地域貢献について
8. 山本 明子(ろう学校)	「チーム奈良ろう」を目指した取り組み ～教科の枠を超えた授業研究を通して～
9. 田端 浩多(朝和小学校)	自分を見つめ、他者を受け入れる心を育てる教室づくり ～国際理解教育とコーチングの視点を取り入れて～

令和6年10月

小学校優秀教職員表彰候補者(1)

No.	表彰候補者	分野	事例概要	担当のコメント
1	なかむら ゆうや 中村 友弥 37歳・男 奈良市立朱雀小学校 教諭 教務主任 算数専科	④ 学校教育	学び続ける学校をめざして ～ESDとNIEの取り組みから～ ESD (Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育) やNIE (Newspaper In Education) の取組を続けて15年目を迎える。NIEでは、奈良県NIEアドバイザーとして活動し、ESDでは奈良教育大学のESD・SDGsセンター主催のセミナーなどを中心に研究に取り組んでいる。 ESDでは、子どもたちが生きる少し先の未来社会をたくましく生き抜く力を育てるために、「価値観の変容」と「行動化」を大切に、授業実践に取り組んでいる。ESDでの学びは日常生活や社会的責任に結びつける狙いがあり、見通しの立てにくいこれからの社会を生き抜く児童にとって、必ず力になるとの確固たる信念の下、長年取り組み続けている。 NIEでは、情報化社会の進展、国際化の加速、社会の変化の激化など、様々な変化に対応するため、教育課題への取組を進めてきた。昨年までの3年間、学校全体としての取組の推進に中心となって取り組んでいる。 また、専門とする算数科では教科書作成にも携わっており、深い見識と指導力で日々の実践を積み重ねてきた。	本教諭は、16年目の小学校教諭である。校内では教務主任として中心的分掌を担い、平成26年からはNIEアドバイザー、令和3年からはESDスペシャリスト講師としても活動し、児童のみならず若手教職員にも良い刺激と影響を与えている。 また、市関係の事業（世界遺産学習やESD、ICT関連）にも多く関わっており経験も豊富である。 自身の研究の主軸となっているNIEの取組を全校体制で推進したり、積極的に児童に関わったりし、マルチな活動姿勢で、学校全体の活性化に貢献している。
2	たけむら あつひと 武村 篤人 43歳・男 生駒市立生駒南小学校 教諭 副教務主任 理科専科（5. 6年）	① 学習指導	理科教育の推進 ～県域での理科振興と、勤務校での具体的な取り組み～ 本教諭は、研究会の活動等で長年理科教育に携わってきた。2年目で全国小学校理科研究協議会での授業公開を行ったほか、奈良県小学校理科教育研究会の研究部研修会に参加し、理科の授業づくりについて数多くの知見を得た。「子どもの学びの道筋を生かす理科学習」をテーマに授業の組み立て方を研究したり教材研究を深めたりすることで理科教育への専門性を高めてきた。 これまでに培ってきた専門性を生かし、勤務校では理科専科を担当している。研究会での学びを生かしながら個人でも教材研究に取り組み、「児童の興味関心や学習意欲を高めること」を目指して実験や観察方法の工夫で結果をより鮮明にする手法の考案や学習の導入や活用場面で興味を高める活動、ICT活用による学習意欲の喚起と情報共有など様々な実践を行った。学習指導のみならず校内の理学的環境を整備し、全校児童に向けて理科への興味関心を高めるきっかけとなるような場作りにも取り組んだ。様々な実践を試みたことにより、児童の理科に対する興味関心を高められたと推察できるが、取り組みの効果については客観的な指標での検証が必要であり、これからも一層の充実をはかりたい。今後の活動として、勤務校ではもちろん、奈良県や各種研修会で先生方と関わる中で、自身の取り組みと経験を広め、子どもたちだけでなく奈良県全体の先生方に対しても理科の面白さを伝えていきたいと考えている。	本教諭は、21年目の小学校教諭である。長年理科教育に携わり、奈良県小学校理科教育研究会等では研修会や実技講習会の開催、学力調査、学習指導研究会など県下の理科教育を推進するための事業に尽力してきた。また、奈良県の理科教育で大切にしたいことを県内の教員へ伝えたり若手の育成を図ったりすることにも貢献した。 令和5年度より、教科担任制推進のための人的配置措置を活用し、二校兼務という形で理科の専科を担当している。研究会での学びを生かしながら、個人での教材研究にも注力し、高学年の理科指導において実践を行っている。

小学校優秀教職員表彰候補者(2)

No.	表彰候補者	分野	事例概要	担当のコメント
3	うえじま たかし 上島 崇 38歳・男 葛城市立忍海小学校 教諭 生徒指導主任 6年担任	⑥ 地域連携	実感を伴った経験から成長につなげる ～地域との連携を通して～ 校区内に拠点を置く企業（段ボールの製作・販売を行う高木包装株式会社）と協働し、卒業記念作品の制作に取り組ませた。高木包装株式会社は段ボール製作の過程で生まれる廃材を活用して、子どもたちに自由に創作させる取組を行っている。本教諭は高木包装株式会社と打合せを繰り返し、卒業生自身の記憶に残る、そして後輩たちの記念にもなる卒業記念作品の制作を企画し、本活動を成功に導いた。 また、平和学習をより子どもたちに身近に感じてもらうため、自身の広島での被爆体験を語りつつ平和講演を行う奈良県在住の秋山勝彦氏をゲストティーチャーとして学校に招待し、児童に平和学習を実施した。広島への修学旅行に向かう児童にとって、大変貴重な学びの場となった。	本教諭は、14年目の小学校教諭である。本年度は第6学年担任、生徒指導主任を担当している。 児童が興味を持ち、楽しんで学習する機会を作り出すことに大変意欲的に取り組んでいる。それらの取組が児童の充実感や達成感を育み、次の学習にも主体的に取り組もうとする態度の育成に繋がっている。 教員の間でも、学年の活動について本教諭に意見を聞いたり確認したりする姿が見られ、学校全体としての教育力向上にも貢献している。
4	にった こうじ 新田 浩司 47歳・男 河合町市立 河合第二小学校 教諭 教務副主任 理科専科 研究部主任 ICT担当	① 学習指導	子どもの学びの道筋を活かす理科授業と子どもの見取り 単元ごとに児童が知っていることと知りたいことを確認し、それを基に単元の流れや順番を調整し、予想や考察など自分の考えを表現できるように工夫した。既習事項や生活経験を根拠にして予想をすることや実験結果を根拠にすることを大切に、児童の実態に応じて、言葉以外にも絵や図表で表すことや、写真や動画の活用、キーボードで文章を入力するなど自分に合った方法で表現できるようにした。また、自分の考えを持った上で話し合いを行い、予想の前後で支持する人数を確認するなど根拠を持った話し合いを行えるように工夫をした。 学習指導要領に沿って、どのような見方や考え方を評価しているかを児童と共有し、児童の成果物を丁寧に見取った。それぞれの成果物のよいところが分かるように線引きや丸の仕方、それぞれの児童に適したコメントの工夫を行った。よい根拠や表現・優れた見方や考え方があった場合は、学級全体で共有することで、全体の底上げを行った。 これらの取組により、児童が自分たちで意欲的に理科の不思議を解き明かす活動をしながら、学習指導要領に沿ってそれぞれが資質・能力を高められるようにした。	本教諭は、18年目の小学校教諭である。本年度は理科専科・教務副主任・研究部主任・ICT担当をしている。 研究部主任として、理科の授業だけでなく職員研修の企画・運営の中心となり、教員の授業力向上と、ICT活用能力の向上に尽力している。 また、生徒指導においても、理科の授業で見せる児童の一面を共有することで、児童理解を深め、支援の方策を考える一助となっている。

中学校優秀教職員表彰候補者

No.	表彰候補者	分野	事例概要	担当のコメント
5	もりやま まさふみ 守山 雅史 39歳・男 奈良市立三笠中学校 主幹教諭 生徒指導主事	⑧ 学 校 運 営 の 改 善	多角的な視点から見る生徒指導における組織づくりについて 三笠中学校の生徒数は近年、減少傾向にあるものの、令和6年4月現在で1年216名、2年226名、3年242名の計684名の生徒が在籍している。人とのコミュニケーションに課題をもつ生徒もあり、暴言や陰口が原因となるトラブルやSNS等のトラブルや生徒指導事象が年間を通して多く起こるが、その理由や背景はさまざまである。 このような生徒指導事象を校内で共有し、対応などについて協議する生徒指導部会を毎週1回（令和6年度は火曜日2限）設定している。この生徒指導部会では、本教諭が生徒指導主事となった令和2年度より、管理職・生徒指導主事・各学年の生徒指導担当教員・生徒支援部長・養護教諭・人権担当教員・教育相談担当教員に加えて通級指導教室担当教員・特別支援コーディネーターの計12名で行っている。このような組織づくりは、生徒指導事象を起こした生徒への生徒理解とその生徒の背景の理解をすることで、課題予防的生徒指導と発達支持的生徒指導を行っていくことを目的の1つとしている。 また、生徒指導部の担当教員だけでなく、それぞれの分掌や専門的な教員がいることで多角的な視点から見た当該生徒へのアプローチが期待でき、これにより特定の教員が抱え込むことなく、多くの教員がかかわって指導や今後の方針などを考えることでチーム学校としての対応が行われており、学年や分掌を超えたかかわりや方策をたてることができた。	本教諭は、14年目の中学校教諭である。令和2年度から校内の生徒指導主事となり、同じく令和2年4月から1年間、奈良県中学校生徒指導研究会の研究委員を務めた。 本教諭が生徒指導主事になってから、柔軟な組織編成を推進し、通級指導や医療機関へのアプローチを積極的に進め、生徒が自己表現方法や周囲との円滑なつながり方を学び、共に学び共に向上できる生徒集団作りに向け尽力してきた。 また、現在は主幹教諭として、生徒指導や通級指導面で学校の中心となっており、今後の奈良県教育を牽引していく人物であると考えらる。
6	しんたに たいち 新谷 太一 34歳・男 奈良市立若草中学校 教諭（英語） 中学3年担任 研究推進部長	① 学 習 指 導	「探究学習の視点を取り入れた校内授業改善」の推進 本教諭は研究推進部長として校内の授業改善を推進するにあたり、知識や技能だけでなく、思考力・判断力・表現力とともに、学習力や人間性の育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実現に向け、生徒たちが主体的に問いを持ち、問題を見つけ、課題を設定し、解決に向けて行動を起こすための学びのあり方である「探究学習」の視点を取り入れた工夫を行うことが有効であると考えるとともに、学びにおける効果的なDXの活用も視野に入れながら学校全体での取り組みを進めている。 また、総合的な学習のカリキュラムにおいても、3年間の系統立てた探究学習プログラムの確立を目指すことで、各担当教科の枠だけに留まることにならない、学校全体として探究学習の視点を理解・共有する流れの確立を進めている。 昨年度より探究学習に視点を取り入れた校内授業改善を学校全体の研究推進目標に掲げ、探究学習の先進校である京都市立堀川高等学校教員を招聘しての校内研修や、奈良県立国際高等学校の探究学習現地視察を全教員で行うなどの研修・視察を重ねることで、探究学習の視点を取り入れる意義の周知を図るとともに、自身の英語科での工夫・改善はもちろん、各教科での工夫・改善を意図した校内研修の場を持つこともできた。 本年度は、文部科学省のリーディングDXスクール事業に本校区小中学校が認定されたことも結び付けながら、6月に本校において、校区全小中学校教員参加型の公開授業研究会を開催し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、本校の探究学習の視点を取り入れた授業改善の取り組みを校区小中教員全体で共有することができた。また、リーディングDXスクール事業の先進地視察で得た知見を、まずは、校内全体の英語科授業に取り入れるなど、校内の授業改善に向けた教職員全体の意識を高める牽引役としての役割を果たすことができた。	本教諭は10年目の中学校教諭である。校内の研究推進部長として校内の授業改善を行っており、自身の教科の工夫・改善はもちろん、学校全体での主体的・対話的で深い学びに結びつく授業改善を行っている。 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「探究学習の視点」を取り入れた工夫が有効的であると考え、効果的なDXの活用も視野に、学校全体での取り組みを進めている。 探究学習に視点を取り入れた校内授業改善を昨年度から学校全体の研究推進目標に掲げ、職員研修を戦略的に重ねることで、探究学習の視点を取り入れる意義の周知を図り学校全体での授業改善に結びつけた。

県立学校優秀教職員表彰候補者

No.	表彰候補者	分野	事例概要	担当のコメント
7	よしたけ ひろあき 吉竹 裕章 41歳・男 奈良県立奈良商工高等学校 情報工学科科長 情報研究部顧問	④ 特別活動	ロボットプログラミングの指導による生徒の育成と地域貢献について 情報研究部の顧問を長年務め、厚生労働省および中央職業能力開発協会主催の全国大会「若年者ものづくり競技大会」の「ロボットソフト組込み」職種に毎年出場している。全国大会において生徒たちを令和元年度と令和3年度には全国優勝へ導いた他、例年上位入賞を果たしている。また、そこで得た知見を活かしながら、地元奈良市での催しや中学校への出前授業として生徒たちがプログラミング教室で講師を務めている。 このような経験を通してグローバルな視点をもってコミュニティーを支えることができる地域のリーダー的存在になる生徒を育成している。高校卒業後の生徒は、さらに高度なプログラミング等の情報分野を学ぶために大学に進学する者が多い。大学卒業後はSociety5.0の実現に向けて社会をけん引するような企業に就職するなど、社会貢献の一躍を担っている。	当該情報工学科では、プログラミング、ネットワーク、ロボットの制御や組み込み、音声や映像を扱うマルチメディア等の技術を学び、ITエンジニアの育成を目指している。 本教諭は情報工学科の生徒が多く所属する情報研究部の顧問として、部員の個性を尊重しながら部活動運営を行っている。ロボット制御を通してプログラミングなどの技術を高めている生徒達は、各種大会で優秀な成績を収めたり、地域の小中学生を対象としたプログラミング教室等で講師を務めたりするなどの活動を行っている。 本教諭は情報工学科の科長としても活躍し、知識を深め、技能の向上を目指して切磋琢磨する生徒の成長を支えている。
8	やまもと あきこ 山本 明子 44歳・女 奈良県立ろう学校 早期教育部 聴能部長	⑤ 特別支援教育	「チーム奈良ろう」を目指した取り組み ～教科の枠を超えた授業研究を通して～ 令和5年度に「全日本聾教育研究大会奈良大会」を開催するにあたり、大会事務局長の任命を受けたことをきっかけに、研究部長として研究体制の改編に着手した。具体的には、「学部」を研究グループとした「教科等横断的な視点」で組織的に研究に取り組む体制を構築したこと、さらに0歳から18歳までの子どもたちが通うろう学校において、育成を目指す資質・能力をすべての教員が共通理解するための校内体制を整備したことである。 聴覚障害教育を専門とする大学教員（信州大学 庄司和史氏ほか三名）を三年間に渡って招聘し、指導助言を仰ぎつつ、ろう学校において育成を目指す資質・能力をすべての教員が共通理解し、同じ方向を目指す「チーム奈良ろう」の実現を目指している。 児童生徒・保護者アンケートにおいては「授業が分かりやすい」という項目で高評価を得ており、確実に成果が出ている。	本教諭が中心となり毎月二回の授業研究会を実施することで授業の見方・考え方が共有され、教科等横断的な視点だけでなく聴覚障害教育の専門性向上に大きく寄与している。教員同士で学び合う風土が構築され、例えばICT機器活用スキルの多様化につながるなど成果を収めている。 授業の満足度が向上するなど学校の教育力向上は顕著であり、大学教授の招聘も含め本教諭が果たしている役割は大きいといえる。

小学校若手教職員等奨励賞候補者

No.	表彰候補者	分野	事例概要	担当のコメント
7	たばた こうた 田畑 浩多 34歳・男 天理市立朝和小学校 教諭 6年担任 研究部主任	⑦ ユ ネ ス コ 活 動 や 国 際 交 流 等	自分を見つめ、他者を受け入れる心を育てる教室づくり ～国際理解教育とコーチングの視点を取り入れて～ 小学校高学年ともなると他者との間に障壁をつくり関わりをあきらめる児童がよく見受けられる。他者の視線動向を気にするあまり、集団への不適合を起こしている児童もいる。昨年度、JICA関西が主催する教師海外研修に参加し、ペルーの学校教育について勉強した。ペルーでの海外研修で他者と関わる際には背景をイメージして関わる事が大切なことを学んできた。帰国後は背景をイメージしながら友だちと関わっていくこと、自らの人格形成について自身の成育歴から捉え直すことを授業の中に取り入れ実践している。 また、JICA関西が主催するJICA国際協力出前授業にて、エジプトの小中学生とオンライン上で、「異文化理解」をねらいとした全5回の授業実践を行った。馴染みのない食事や異なる宗教に対しても、理解しようと努める姿勢が見られた。また、日本の文化や良さ、生活の様子についても、英語やジェスチャーで伝えようとしていた。この実践の様子は、産経新聞・奈良新聞にも取り上げられ、子どもたちにも大きな刺激になった。 日々の実践の中で、コーチング的手法やアドラー心理学をもとにした子どもたちとの関わりや、子どもたちへの声かけをすることで、子どもたちが「自ら考え生み出す力」を引き出し、子どもたちの「本当はこうなりたい」という願いを叶えられるよう取組を続けている。	本教諭は9年目の小学校教諭である。現在は6年生担任・校内の研究部主任として日々前向きに、責任をもって職務を果たしている。 昨年度にはJICA関西主催の海外研修（ペルー）に参加し、見識を深めてきた。 校内では若手教員の要となり指導助言も含めよく相談相手になっている。また、学習指導や生徒指導等は、子どもの実態を的確に分析し、学年内の教職員はもとより、児童や保護者との関係においても調整力を発揮し、若手教職員の手本となっている。特に、児童への指導においては、多感な高学年を連続で担任し、子どもたちが生き生きと授業に臨めるよう心がけている。 保護者からの信頼も非常に厚く、多くの保護者が相談に訪れている。教職員のみドルリーダーとして、他の教職員の模範となる資質を有している人物であると考えている。